郡市青年團
体育大會

上條陸上に初優勝

相撲は柏崎三區制覇

郡市青年團体育大會は八月一日陸上競技は一九チーム参加して柏崎市營競技場で、相撲は一三チームの出場で柏崎神社相撲場で擧行され、陸上競技では春以來周倒に用意を整えた上条が北條の四連覇を沮んで初優勝を遂げ、相撲は柏崎三区が制覇した。

上条は昨年來頭角を現わして來たが、本年は郡團長に会田君をおくつて、青年團意識を昂揚し、頓にその内容を充実し、上条郷体育大會にも圧勝した余勢を驅つて、不敗の覇者北條に挑んだ。その陣容はピカ一的存在はないが各種目に滿遍なく得點し、二十一種目中十八種目に得點する堂々たる勝利であつた。あたかも二、三年前の北條チームそつくりの感を与えた。來賓席で冷靜を粧いきれない會田村長の表情も又見ものであつた。スポーツ村長、郡連合國長、峻嚴なコーチ内山倫夫校長の三者をもつた上條は勝つべき凡ゆる要素を揃えていたのであつた。柏崎三区は鉢崎、山田、矢代、栗林等の高校出身選手を加えて陣容の強化を図つたが、その重厚さに於いて上條に遠く及ばず、佐藤、藤田等の奮闘も二〇點近くを離されて二位となつた。柏崎三区を猛追し三點差まで迫つた荒濱、高田の活躍が寧ろ清新な氣を與いた。特に荒浜は大豪遠山を日米競技のため缺きながら男子種目のみで四十六點を擧げ中、優勝四種目、その他上位得點數を得て男子の部に圧倒的强味を示した。遠山加わらんか、更に一五點を加うることは確實で、上条の優勝も危なかつたらう。併し乍ら女子に一人の選手も居ないチームでは賞讃する譯には行かぬ。この大會が單に技を競うに留らず、青年の祭典として、団組織の擴充强化を第一義とする性質よりしても、男女全種目に先づ参加することでなければならぬ。荒濱の猛省と奮起を希望する。

記錄の上より観察するに遠山、曾ての小林、星等なきこの大会は目星しいものを見出すことが出來ない。記録それ自体に絶大の価値づけをするのではないが靜かにその裏面を考察するときに、常に、例年この大會が單なる催しとして終つていることを指摘せざるを得ない。この大會が間近に迫る七月頃より漸くそのための練習に入り、この大會終るやバッタリと練習を中止する態では年々同一のレベルを彷徨するだけで向上は期せられない。勤勞青年達がそれ〴〵の業務に余裕のない事情下誠に同情に堪えぬものがあるが、僅かの時間を割いて少くも体操程度を持續し、週に一日運動場に現れるねばり强さと努力があるならば勝者の位置は約束される。スポーツは体育の上に成り立ち、体育は日常生活そのものでなければならぬ。來夏の覇者を目指すもの、ここに思いを致し範を垂れていただきたいと念願する。

成績

陸上競技

男子の部

△一〇〇米　①葉賀（上條）一二秒三②吉田（柏3）③菊入（内郷）
△二〇〇米　①橋崎（柏3）二五秒八②板羽（高柳）③桑原（荒浜）
△四〇〇米　①植木（野田）五八秒一②内山（高田）③木戸（上條）
△八〇〇米　①力石（野田）二分一四秒四②若山（高柳）③鴨下（高田）
△一五〇〇米　①牧口（荒濱）四分三六秒二②柿村（柏3）③植木（上條）
△五〇〇〇米　①入澤（中通）一七分三九秒②牧口（荒濱）③山岸（中鯖）
△マラソン　①飯塚（高田）一時間七分七秒六②朝賀（高柳）③柳（南鯖）
△八〇〇継走　①荒濱一分四四秒六②高柳③高田
△一六〇〇継走　①野田三分五五秒②高柳③上条
△走巾跳　①吉田（柏3）五米八一②渡邊（荒浜）③中村（上條）
△走高跳　①本間（荒濱）一米五五②箕輪（高田）③橋崎（柏3）
△三段跳　①本間（荒濱）一二米一四②山田（柏3）③高橋（高田）
△砲丸投　①佐藤（柏1）一二米一三②桑原（西中）③須田（野田）
△三種　①佐藤（柏1）一五七五點②桑原（荒濱）③須田（野田）

女子の部

△六〇米　①大橋（上條）九秒二②中野（高田）③柳（南鯖）
△一〇〇米　①田中（北條）一四秒五②池島（上条）③中村（高柳）
△二〇〇米　①植木（野田）三一秒四②柳（南鯖）③渡邊（中通）
△四〇〇米継走　①上條（六〇秒五②北條③中通
△走巾跳　①池島（上條）三米九一②藤井（内郷）③丸山（南鯖）
△走高跳　①藤田（柏3）一米二〇②植木（野田）③入沢（中通）
△砲丸投　①田中（北条）八米七一②栗林　柏3）③田中（野田）

総得點

①上条　六八點
②柏崎3　四九、五點
③荒濱　四六點
④高田　四六點
⑤野田　四二、五點
⑥高柳　四一點
⑦北条　二七、五點
⑧南鯖　二五、五點
⑨中通　二二、五點
⑩西中通　一八點
以下略

男子得點

①荒濱　四六點
②上条　三八點
③柏崎3　三六、五點
④高田　三四、五點
⑤高柳　三三點
⑥野田　二九點

女子得點

①上條　三〇點
②北條　二一、五點
③南鯖石　一六點
④中通　一四、五點
⑤野田　一三、五點
⑥柏崎3　一三點

相撲の部

團体
①柏崎三区②北條③二田④高柳⑤石地⑥内郷

個人
①金子三治（高柳）②笠原勇
③山越義男（柏三）④尾崎幸
男（二田）⑤相澤健司（柏二）
⑥澤田忠藏（柏三）

スポーツ
㈧
今昔物語

お辭儀し乍ら走る

小熊藤里先生

スポーツマン禮讃の
うた　小熊藤里

○
金城か湯池か非ずたのむべきは　スポーツマンのその精神よ
○
鍛えたるその黒金のかひなもて　御國を守れ　スポーツマン等よ
○
われはたゞ　みとれて居りぬ名工の　彫刻に似たるスポーツマンの身体

× × ×

筆者は此間、昭和五六年頃の新聞切抜帖をめくつていると、ふと右のうたに突き当つて、小熊先生の在りし日を思い出し、ホロリとしてしまつた。

昔の柏中には、随分出色のある、そして町の人に親しまれ、畏敬されていた先生が多かつたものだ。我が小熊先生も勿論そのお一人であつた。

先生は確か、藤井あたりの方、名は藤一郎と云つたかと記憶している。習字の先生であり、漢文の先生でそのニックネームは「ボニヤー先生」であつた。目の細い、如何にもボニヤーンとしている御面相、否お顔だちから出たものらしい。但し性極めて溫厚、人に對して鄭重、慇懃柏中在勤二十余年の間、容姿常に變らず、生徒は、小熊先生の怒つた顔を見たことがないと言うことであつた。

此の猫のような溫順の先生スポーツ等には凡そ無関心かと思いきや、このような名句かで、スポーツマンを礼讃されることに、筆者は意想外の感じと興味を覺え、その歌の内容も、教訓的ではあるが、気に入つたので、特に切抜帖に残して置いた訳だ。

先生逝いて幾年、今此の歌を讀んで居ると、あの小なりで溫厚の標本のような小熊先生が、自轉車で通勤されて居られたありし日の姿が、あり〳〵と記憶に浮んで、直接教えを受けたことのない筆者でさえ、懐しさにホロリとするのである誠に教え子の諸君には、追慕の感慨も深からうと思うものだ。

偖て毎年乍ら恒例の秋季大運動會。その呼物の一つが全職員のリレーレース、小熊先生も無論走者の一人である。やがてバトンが小熊先生に渡される。

「小熊先生しつかり〳〵」

と應援する。足元あぶな気の小熊先生、走るのを止めて応援の方へ顔を向け。

「イヤ御ありがとう御座います」

とお辭儀である。皆がじれつたがつたり面白がつて

「小熊先生」

「小熊先生」

とあちらからもこつちからも応援が盛んだ。一々その方へ「ぺこ〳〵」頭を下げ乍ら走る、と云うよりは道草を食い乍ら歩いている勿論他のチームは全員ゴールインして居るのに、我が小熊先生はバトンを握つてお辭儀の最中である。それが冗談や戯れにやつているのではない。本人の小熊先生には全く以つて本氣なのである。人の厚意の応援に對して、默つて走ることの出來ない小熊先生である。

イヤ満場が洪笑。爆笑。お蔭で皆のお臍が宿換えと云ふ次第であつた。これは決して他から聞いた話ではなくて筆者も目のあたり見聞してお臍の宿換え組の一人である。

此の小熊先生時間観念が極めて正確で、懐中時計や腕時計等絶体にお持ちにならない。よく生徒達が、からかい半分で、自分は時計を持つてゐるくせに、

「先生この時間はあと何分位ありますか」

「ハイ後七分あります」

時計を見ると、ぴつたり合つている。何回試しても違わなかつたとか。

これは筆者の実験談ではなくて聞いた話であるから眞僞の程は判らぬが兎に角思出の多い名物先生であつた。

体操の妙技

縣下体操種目別

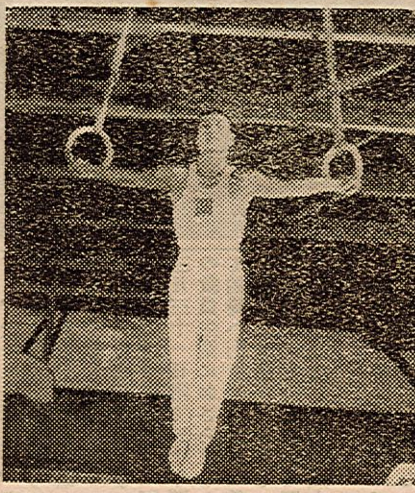
選手權大會

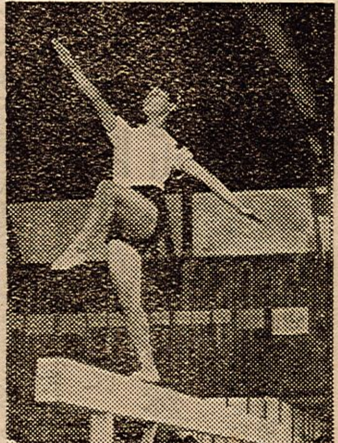
県下体操競技種目別選手權大會は八月十一、二日、柏崎工業高校体育館で開催された。

本縣の体操のレベルは全國的水準にあり、わけても中山、菊地、川田等オリムピック候補の存在は体操を華やかなものにしている。

この大會には高田高校が參加しなかつたが女子部の渡邊、小林等の花形選手も加え県内の精鋭を集めて妙技を展開し、觀衆を魅了した。

柏崎では柏商、常盤高校で僅かにやる程度で体操競技が振わないのは淋しいが体操は体育の王座、体操競技は又最も華麗なスポーツであるのであるからこの方面の振起を望みたい。それには先づ体操器具等施設の整備が必要である。學校あたりでも、体育の時間にはもつと体操競技の指導に力を入れていただきたいと思う。〔寫眞は關君（北越商）の見事な十字懸垂と、五十嵐嬢の平均台〕





勤労者体育大會

盛大に擧行

第四回全國労働組合体育大會新潟縣豫選會兼第三回新潟県勤労者体育大會は八月三、四の両日、柏崎に於いて開催された。

新潟、新發田、長岡、小出、直江津、両津、柏崎の各勞政事務所管区單位に地区豫選を行つて選ばれた精鋭野球他五種目に六十八団体六四一名の選手が参加し盛大な入場式を柏高球場で行つて後、各種目別にそれぞれの會場に別れて熱戦を展開し、野球長岡、排球男新潟、排球女直江津、卓球男新潟、卓球女新潟、バドミントン男新潟、バドミントン女新潟　相撲団体直江津、相撲個人直江津、マラソン新潟が優勝し、綜合順位は一〇種目中六種目に優勝した新潟が一位となつた

成績（柏崎関係分のみ）

◈野球
一回戦
日石（柏崎）5―4日曹二本木（直江津）
準決勝
日石（柏崎）4A―1昭和石油（新潟）
決勝
北越製紙（長岡）3―0日石（柏崎）

◈排球男子
一回戦
新鐵工（柏崎）2―0縣庁中魚支部（小出）
準決勝
日東紡新潟（前年度優勝）2―0新鐵工（柏崎）

◈排球女子
一回戦
柏崎市役所（柏崎）2―0北越製紙（長岡）
準決勝
日東紡新潟（前年度優勝）2―0柏崎市役所（柏崎）

◈卓球男子
一回戦
県庁（新潟）5―0電通（柏崎）

◈卓球女子
一回戦
青海電化（直江津）4―1教職組（柏崎）

◈相撲團体
一回戦
新潟硫酸（新潟）3―2日石（柏崎）
帝石（柏崎）4―1日通（小出）
帝石（柏崎）3―2大阪機械（長岡）
準決勝
青電（直江津）4―1帝石（柏崎）

◈マラソン
④牧口慶治（柏崎、三興アンプル）五五分四六秒六

◈バドミントン男子
一回戦
電産（新潟）3―0日石（柏崎）
新潟硫酸（新潟）3―0新鐵工（柏崎）

◈綜合順位（十種目中優勝數により順位を決す、優勝のないときは二位數により決す）
①新潟②直江津③長岡④柏崎

柏崎勢敗退

上越中學校排球大會

県下中学校上越地區女子排球選手權柏崎大會は八月二十五日柏崎市少年野球場に於いて上越の各地豫選を透過した十六ケ校が參加して擧行され柏崎市よりは柏崎一中、柏崎三中、刈羽郡より田尻中、中通中、石地中が、出場したが、これら地元五チームは一回戦に全部勝ち、二回戦で柏三中対石地、柏一中對中通中の地元郡市同士の對戰でいずれも郡部に凱歌が上り、田尻中は安塚に對し一セットを奪つたが遂に破れた。決勝は石地對安塚の間で行われ石地の奮戦も及ばず覇權は安塚に持ち去られた。

總じて中學生らしい元氣なプレーが見られ仲々よい大會であつた。

成績（柏崎、刈羽関係）

一回戦
石地中2―1米山（中頸）
柏三中2―0木浦（西頸）
田尻中2―0附屬中（高田）
中通中2―0糸魚川（西頸）
柏一中2―0源中（中頸）

二回戦
石地中2―0柏三中
安塚中2―1田尻中
中通中2―1柏一中

準決勝
石地中2―1柿崎中（中頸）
安塚中2―0中通中

決勝
安塚中2（21―18　11―21　21―17）1石地中

市民水上運動會

お流れ

八月十七日擧行豫定の市民水上運動會は、千天續きで水源池減水し水道給水狀況著しくひつ迫してプールの水の入れ替え不可能のため延期し、降雨を待つたが無爲、遺憾ながら本年は中止の已むなきに至つた。

諏訪町優勝

第六回少年野球大会

第六回少年野球大會は八月十日（第一日）十五日（第二日）三十四チームが参加して擧行され、春の防犯少年野球に優勝した本町七丁目チームを破つて諏訪町チームが優勝した。

成績

第一回戦勝者
栄町　本町七丁目、比角十二、三区、港町一、二町目、東學校町、旭町、御橋二区、本町四、悪田本町一、柏榮、諏訪町三新花町、八坂町、鯨波、諏訪町一

第二回戦勝者
本町七、港町一、二、旭町、大洲、悪田、柏榮、八坂町、諏訪町一

第三回戦
悪田、諏訪町一、本町七東學校町、大洲

第四回戦
大洲6A―1東學校町

準決勝

諏訪町一	5	1	0	1	3	10
悪田	0	0	0	0	0	0

コールドゲーム

本町七	3	0	0	0	0	3
大洲	2	0	0	0	0	2

決勝

諏訪一	5	0	0	2	0	1	A	8A
本七	1	0	0	0	0	1	0	2

本町六丁目優勝

第五回町内對抗野球大会

第五回町内對抗野球大會は八月十四、五日卅五チームの参加を得て柏高、柏商、柏工の三球場に熱戦を展開し本町六丁目に榮冠が輝いた。

第一回戦勝者
本町五A、港町三、下四ッ谷、田町A、本町二B、鯨波、驛通り、本町四（不戰勝）豊ケ岡、悪田、（不戰勝）本町六、本町二、旭町諏訪町三、関町、港町、羽森町、豊洲、下四ッ谷

第二回戦
本町二B、驛通り、豊ケ岡本町六、本町二、關町、港町三、下四ッ谷

第三回戦
驛通り、本町六、關町B、下四ッ谷

準決勝

本町六	1	0	0	0	0	2	A	3A
驛通り	1	0	0	0	1	0	0	2

關町B	1	5	0	3	0	0	A	9A
下四谷	0	0	1	3	0	0	0	4

決勝

本町六	2	0	0	0	0	0	1	3
關町B	0	0	0	1	1	0	0	2

"若さこそ生命なること証かしつゝ駒を進めり柏崎男子ら"

柏高倶第三位獲得

全日本排球綜合選手権大會

八月二十四、五、六日山口市に於いて行われた全日本排球綜合選手権大會に、新潟県豫選に優勝した柏高クラブは県代表として参加し、若冠よく力闘し堂々準決勝まで進み第三位を獲得して氣を吐いた。

柏高倶監督松田信英氏にその活躍振りを聴く

「柏高倶は柏高在學生六名卒業生七名で混成チームを編成し七月二十二日長岡で行われた縣豫選に優勝した余勢を駆つて全國大會に出場した。全國大會は六百万圓の巨費を投じて改修した山口市営コート八面をもつ山口市営球技場で行われ全國より各県一チーム宛の代表四〇チームが集つた。そのチームは綜合の名にふさわしく高校、大學、クラブ、実業団等何れ劣らぬ一流揃いであつた。

各県チームとの実力の差も見當がつかず、兎に角全力を盡して頑張るより手はないと一同緊張して、練習以外は宿舎より一歩も出ずにチームワークの統一に心を注いだ。

第一回は高知県代表日本紙業伊野工場と對戦し第一セットは對手の緩漫なペースに引きこまれて調子出ず18—21と振わなかつたが第二セット1—10、第三セット21—12と楽に撃破した。

第二回戦は香川縣代表全高松の出足に引離されてペースを乱し18—21とセットを失い、第二セットに入つても始め6—9とリードされたが丁度記録員の誤りに抗議し協議十分も要してもんだ後遂に当方の主張が認められてより俄然元気をとり戻し現役バック陣懸命のレシーブに美技續出し、前衛是に呼應しFC廣瀬の美事なトスさばきにより内山の強烈なスパイク、FL巻淵の變化あるタッチで逆轉して之を取り、第三セット當方愈々調子づくに引きかえ、高松志氣くぢけて当方の気魄に押されて一方的に破れ去つた。若さで押したゲームで當チームとしては一番よい出來であつた。第二セット21—19、第三セット21—12。

思わざる成績に一同の志気天をつく程であり宿舎に帰り英気を養い明日の試合に必勝を期した。二日目の第三回戦は三重縣代表三重縣庁を21—12、21—17とこの老巧チームを一方的に押しきつた。この頃は將に実力以上の快調であつた。

愈々準々決勝、全松江、兵庫クラブ、藝陽クラブ、慶応大学、室蘭富士製鐵、東洋レーヨンと何れも天下の名門、伝統を誇る強剛チームであり、この中に当チームが加つたことが既に驚異であつた。ここまで來ると愈々調子づいて不敵な闘志が溢れて來た。

準々決勝では全松江と対戦することとなつた。全松江は前年度優勝の京一中クラブを破つた倉紡萬壽を更に撃破した技巧のチームであり、特に前衛の早タッチのコンビは實に巧妙を極めた強剛であつた。之に對する當チームは技巧よりも學生らしい生一本で強引なアタックを主にした徹底的な前衛ストップで對応し21—19、21—19とシーソゲームを演じ僅かの差で破つてここにベストフォアに殘り、準決勝に進んだ。全松江との對戦に於いては當方の作戦が全く図星となり、それに加え、後衛陣の完壁なレシーブ、豫想外に好調なサーブ、内山のライン外より強烈なスパイクは最高潮に達し、痛快な攻撃戦を展開して一大番狂せを演じたのであつた。

第三日目の準決勝では、天下の強剛廣島縣代表藝陽クラブに喰い下つたが21—5、21—17と刀折れ矢つきて遂に敗れ去つたのである。

準決勝からはコートは一面に集り、満員の観衆の中では田舍の學生の悲しさ、すつかり上つてしまい、藝陽の持駒豊富のアタックに對して何れをマークすべきか見當もつかず、當方内山のキル連日の疲労でうまく極らず飽気なく一セットを失つてから奮起し、悲壮な覺悟で捨身の玉碎戦法に出じり〳〵追ひこんだが及ばず敗れてしまつた。

奮戦の跡を顧るに、籤運に惠れたとは申せ、初出場の選手諸君が何れ劣らぬ日本一流チームに伍して、おめず憶せず、堂々と全力を盡す神氣に徹したのであり豫想外の成績も單に偶然とは言いぬ理由があつたものと思う。大會委員長からも特に激賞され「若さこそ生命なること証しつゝ、駒を進めり柏崎男子ら」とまで一句をいただいた。如何に選手一同元氣一杯敢闘したかがお察しいただけると思う。

この感激を忘れないで、愈々精進を積んで斯道発展に努力する覺悟である。絶大な応援を贈つていただいた市民各位に衷心よりお礼を申上げたいと思う」

柏高倶メンバー

監督　松田信英
マネジヤー　佐藤　濤
主將　前中　廣瀬敏彦
前右　江村　隆
前左　巻淵新太郎
中右　内山　喬
中中　遠藤和夫
中左　霜田定利
後右　山崎昭七
後中　松原三男
後左　下村昭一郎
補欠　片桐俊夫
池田守正
桑山弥寿男

寫眞は柏高クラブチーム

（註、柏高クラブは柏高在學生、柏高O・Bの混成チーム）

天狗りレー（七）

六尺二寸の阿蘇君を打込む

禿　勇　專

曾て京都武徳殿で毎年五月開開かれる演武大祭劍道試合には全國より名負うての猛者二千余名が集つたものだ。

全國選り抜きの者だけに仲々偉大な体軀の者が隨分居つた。満鐵の高野茂義先生は二十八貫、相撲上りで手が大きく、鐵砲の引金に指が入らぬため軍人になれず、劍道を修業して大家になつた人。身長の方では九州菊地の一族阿蘇甚太郎君は三十九才、身長六尺二寸三分。次が神戸の毛利譽さんで六尺一寸五分。二千人の來會者の中で人の頭の上へ顔を出しているので見事なものであつた。

大正十年五月七日、僕は[illegible]段で練士試驗を受けることになつたが、その折僕と組合せになつて試合することになつたのはこの六尺二寸三分の阿蘇君であつた。阿蘇君は普通のものより四寸長い竹刀を持つて居るので之を打込む事は容易なことではない。僕より八寸背が高く、長い竹刀で中下段に構えられてはどうしても近寄れない。この構いを崩するには氣力で攻め、技で押して行くより仕方がない然し仕損ずると力で押し倒されてしまう。相手にとつて不足はないが、勝を制せんとするには相手の腕力を利用する。相手を引出し出鼻の虚を窺う。或いは色を見せて相手の業をすり上げて返しを取る。この辛苦は一通りでないが、玆に劍道の妙味がある。相手が長身を誇つて頭上を狙つて來るのは常道だが、來たらこれを引きはずして胴を拔く。對手も長身の不利は充分に知つているから仲々出て來ない。虚々実々、中央でにらみあつたまま規程の時間がたつばかりで勝敗は決しない。審判より「勝負一本」と宣告されて、出直して立ち上る刹那、捨身の撃突左より刺した一本が極つて遂に勝つには勝つたがこの位骨の折れた試合はなかつた。

僕は精錬証をいただいたが発表を見ると僕にやられた阿蘇君も精錬証拜受者となつていた。

大正十三年頃よりは四段以上のもので総裁梨本宮殿下の御前において美事な仕合をした者に精錬証が出て必ずしも勝敗だけでも決めない様になつたが、大正十年のこの頃に於いては試合に敗けても精錬証が出ることはなかつたのだ。それ程僕と阿蘇君の試合は力の入つた試合であつたのだ。

僕はこの年の六月五段になつて宮内省主催の宮城内濟寧舘道場に於ける御台覧試合に式部長西園寺八郎さんの指名呼び出しで出場し當時の攝政の宮殿下の御前で試合をした。

その時分は年も若かつたし天下敵なしと自惚れて大いに暴れたものである。

（禿氏は現在妙光寺住職）

—舊稿を懐しむ—
8

北越時報に連載

体育一週一言

—桐葉隱士の匿名で—

紫　樓　生

四年間、猫を冠り通した長岡生活を愈々切り上げようと覺悟をきめたのが昭和十三年一月である。一つ、置き土産に在岡四年の感想を素直に書いて見よう。そして此の極端に封建的な長岡、或る特殊の人ばかり空威張りの、沈滯せる長岡の体育界を覺醒してやろうなどと、大それた考えで、北越時報の長谷川主幹からの依頼もあり、新年匆々筆を起した。そして第二週の一月九日から四月十七日まで週刊北越時報に連載十五回三月三十一日附で三十年間の教員生活におさらばをして柏崎へ引き揚げたので筆を擱いた次第だ。今になつて見れば、もつと書いて置けばよかつたと惜しい氣もする。

長谷川北越時報主幹は、絶体秘密にしてくれたので、桐葉隱士の匿名のぬしが、その誰人であるかは露見しなかつた。まさか、猫のやうに温和しい？四郎丸の四郎吉の筆であるとは誰も氣付かなかつたらしい。ことそれ程長岡時代の私は温厚の君子であつたらしいから愉快であつた。と云ふよりは悲惨な長岡時代であつたのだつた。胸の中には、烈々燃ゆるやうな希望を抱き乍ら、これを噴出することの出來ない惨めな私であり、性格を押えて猫を冠らねばならなかつたあの四年間は、牢獄生活のようなものとも申すべく、その私が、いよ〳〵教員生活を見切つて、開放されようとする気強さに、いきおい筆に油が乗つて、長岡体育界を批判し去つて正に縱横無盡。左にその題名だけ並べて見よう。

一、民族主義体育へ
二、厚生省に望む
三、民衆体育の提唱
四、革新せよ長岡体育團体を
五、長岡体育協會に望む
六、体育團長志賀定一君に訴う
七、起て酒井由太郎君よ
八、熱血更に加えよ堀井榮藏君
九、長岡陸上競技協会を結成せよ
十、綜合グラウンド今何處
十一、スポーツマンよかくこそありつれ
十二、今井楢三博士と体育研究會に檄す
十三、稲川忠一君を表彰せよ
十四、學童オリムピックの種目を改發せよ
十五、事大主義と体育天狗を排す

等、今見てもヒヤリとする程大膽な論評をやつている。

長谷川主幹の編輯後記に曰く、

「桐葉隱士のスポーツ時評は益々熱を加へ、長岡スポーツ界の警鐘となつているが、單にスポーツ界のみならず、時評を通じて長岡人の欠點をうかゞい知る事が出來るのである。聞く處によれば、此の体育時評に動されて陸上競技聯盟の創立も計劃される由である」と

しかし、長岡人は腹が大きせいか、將又スポーツに熱がないのか、否私の事に力が足りないせいであろうが、酒井由郎さんから一寸反對論めいた寄稿があつたのみで、他からは何の反撃もなかつたのは聊か物足りなかつた。若しそれがあつたならば、一層筆に力も乗つたであろうに、どうせ引き揚げる長岡であり、教育界から足を洗えば、くびになる心配もないのだから、長岡体育界を啓蒙してやるのも亦快なる哉であつたのに。（呵々）

日米陸上競技に

遠山、大須賀の殊動

世界の王者ホイットフィールド以下七名の米国選手南米歸りの澤田主將以下二四名の日本代表選手、杉村以下十三名の女流選手を迎え、地元新潟県選抜代表選手四二名を加えて八月六日、新潟市営競技場に於いて二萬の観衆を集めて擧行された。

競技場の改修工事が意にまかせず、そのコンデションが憂慮されていたが、前夜の降雨で適度の濕氣を帯びて走路はまずまずの狀態で日米代表の妙技に接し得た。

観る者をして啞然たらしめたのは、千米継走のアンカー、ホイットフィールドが日本軍山本を一〇米の後より追走し、颱風の如くアッと言う間に抜き去つてしまつた邊の走姿には流石王者の貫録充分であり、又ダイヤーのダイヴィングともまがう鮮かなベリーロールは日本人の前に示された始めての本格的なものであつた。

又観衆を喜ばせたのは日本記録に二糎まで迫つて六米〇五の終戦後最高記録を出した杉村の走巾跳と日本代表の山本を破り五一秒六を出した四〇〇米の遠山と須藤を破つて九分二秒四の快記録を出した三千米の大須賀の、いずれも三位となつた快走であつた。

この二人は県下最高記録を以て日本代表の一角を崩した唯二人のものであつた。期待された塚原は全國高校大會以前よりスランプで元気なく二分四秒三で五位に終つた。

成績（柏崎関係分のみ）

四〇〇米③遠山五一秒六⑥柴野五四秒二
八〇〇米⑤塚原二分四秒三⑥柴野二分八秒四
三〇〇〇米③大須賀九分二秒四
一一〇米高障碍⑤加藤亨一六秒九
棒高跳⑥山田三米二〇

柴野、佐藤(日石)組勝つ

第五回市長杯庭球大會

八月二十六日、第五回市長杯庭球大會は柏高、柏商両コートに於いて男子四四組、女子六組參加して熱戦を展開し柴野、佐藤(日石)組が準決勝で昨年の優勝者入澤、加藤(柏陽)組を破り更に決勝で大矢、川合(柏陽)組も撃破して優勝した。

男子學生の部では石塚、佐藤(柏高)組が、女子學生では吉田、前川(柏商)組が制勝した。一般女子の參加がなかつたのは遺憾であつた。

成績次の通り

一般男子

準決勝
柴野　佐藤（日石）4—2 入澤　加藤（柏陽）
大矢　川合（柏陽）4—3 飛田　金子（柏陽）
決勝
柴野　佐藤（日石）4—1 大矢　川合（柏陽）

學生男子

準決勝
佐藤　石塚（柏高）4—3 星野　清野（柏高）
末崎　藤田（柏商）4—2 山田　大谷（柏高）
決勝
佐藤　石塚（柏高）4—2 末崎　藤田（柏商）

學生女子

準決勝
吉田　前川（柏商）4—2 入澤　久保（柏商）
近藤　田村（常盤）4—0 小林　阿部（柏商）
決勝
吉田　前川（柏商）4—2 近藤　田村（常盤）

國鐵陸上競技會は

全部柏崎で開催

全國鐵陸上競技會を行う柏崎で國鐵の系統大會は全部開催された。

八月二十三日

新潟鐵道局管下大會に出場する柏崎、直江津地區代表を選出する豫選會は柏崎直江津、西吉田、東三條等より約一〇〇名の選手が参加した。

八月二十八日

新潟鐵道局管下四支部對抗大會は各支部二十二名宛選手が出場して擧行され、第一支部（坂町、新潟地區）が優勝した。

秋田優勝

信越大會

全國鐵大會に参加する單位ブロック、信越地区の豫選會は信越三局（秋田、長野、新潟）對抗の形式で擧行され、各局代表各二十二名宛の選手が参加し、接戦の末秋田が新潟と昨年の優勝チーム長野を破つて豫想外の勝利を獲得した。

短距離の加賀屋（秋田）四〇〇の高橋、小林（長野）走高跳の池田（新潟）三段の清田（新潟）の活躍が目立ち、これ等には全国大會に於ける信越ブロックの闘將としての力闘が期待される

總得點
①秋田　八五點
②新潟　八〇點
③長野　六九點

体育民踊指導の夕

柏崎神社境内で八月二十七日から三日間、体育民踊指導の夕を坂田社會体育部長指導の下に開催、連日約五百の老若男女が、坂田先生の號令のもと三階節は勿論相川音頭、佐渡おけさを大いに踊りまくつた。

國体軟式野球

柏崎豫選

八月一九、二〇、二一日於柏商、柏高兩球場

決勝
日石2—0東電

日石は八月二十二日直江津町に於ける上越豫選に出場して信越化學と對戦して惜しくも退敗した。

遠山六位、田中落選

全國勤勞者陸上競技大會は八月十八、九日福岡市に於いて行われ、新潟縣代表として出場した當地の遠山豊治君は四〇〇米決勝で六位に入賞、田中雍子さんは砲丸投豫選は九米三〇をオーバーして入選したが決勝に於いては入賞するに至らなかつた。

この大會で新潟県の得點は遠山君の四〇〇米一點と女子走巾跳の箱田さんの六等一點の計二點で振わなかつた。